

5

g o b a n
t u b e
c a f e

r e p o r t

マスターによるカフェレポート

20080720 珈琲東東 (カフェントントン)
スタジオレクチャー vol.01

タジャハーオ
大家 好 (皆さんこんにちは)。僕は東東。今回のカフェのマスター (パンダマスコット) だ。カメラを抱え、世界中の美しい風景、すてきな人々を撮影して歩いているよ。

今回はsmt6階の「写★新世界」展に参上！ カフェ当日は展覧会初日でもあり、僕の大好きなコレクターの会監修者の港千尋さんをんなお話を聞きました。ーク、東京、上海での作品の買い付けで、当作品が今は200万円伝説的存在の写真家とどは、面白かったね。てきた僕もたじたじ。国の芸術へ向けるエネルギーを見張るものがあると言っていたのは嬉しかったな。じゃあまた、世界中の写★新世界を見つつけに行ってくるぞ!! 再見。



石原悦郎さんと、写真家で展覧会監修者の港千尋さんをんなお話を聞きました。ーク、東京、上海での作品の買い付けで、当作品が今は200万円伝説的存在の写真家とどは、面白かったね。てきた僕もたじたじ。国の芸術へ向けるエネルギーを見張るものがあると言っていたのは嬉しかったな。じゃあまた、世界中の写★新世界を見つつけに行ってくるぞ!! 再見。

マスター 東東



作画:優

ホスト せんだいメディアテーク
ゲスト 石原 悦郎 港 千尋
マスター 癒し系パンダ東東

カフェ研からのコメント

ニイハオ ナンナン ポンヨウ
你好、私は南南。朋友・東東を呼びました。コピーがもはや当然の情報化社会の今。そんな時だからこそ人は「コピー」では無い「本物」に出会う喜びを求め旅に出るのではないのでしょうか。今回のカフェも「リアル」な話を求め、遠方からも多くの聴衆にお集まりいただきました。トークの最後には6階の展覧会会場も訪れ、お二人と共に（ヴィンテージも含めた）貴重な「本物」＝作品と都市をめぐる濃密な小旅行も楽しむ贅沢なレクチャーとなりました。

5

g o b a n
t u b e
c a f e

r e p o r t

ホストによるカフェレポート

20080801 クリエイティブシティカフェ / SC³カフェ

今回が初めてのカフェ開催ということで、いろいろ不慣れなことがありましたが、smtさんのご協力もあり、大盛況のうちに終了することができました。参加者が約50人と熱気ムンムンの中、大滝マスターによる「本日はクリエイティブシティカフェようこそ!!」の発声から始まったカフェは、東北大学経済学部大学院生による国外5都市、国内3都市の事例発表に加え、仙台のクリエイティブシティの可能性についてのディスカッションなど、非常に内容の濃いものだったと思います。あまりの熱気に、終了時間が予定より大幅に遅くなり、smtさんの皆さんにご迷惑をお掛けしてしまいましたが、「異業種の連携のためにはプロデューサーの存在が重要」など、マスターからの貴重な提言もあり、参加者の皆さんも非常に有意義な時間を過ごしていただいたものと思います。当日は、ふらっとカフェに立ち寄られる方もいて、「goban tube cafe」が持つオープンな「場」の雰囲気も良かったです。クリエイティブな街づくりを話題として、ぜひまたカフェを開催したいと思います。

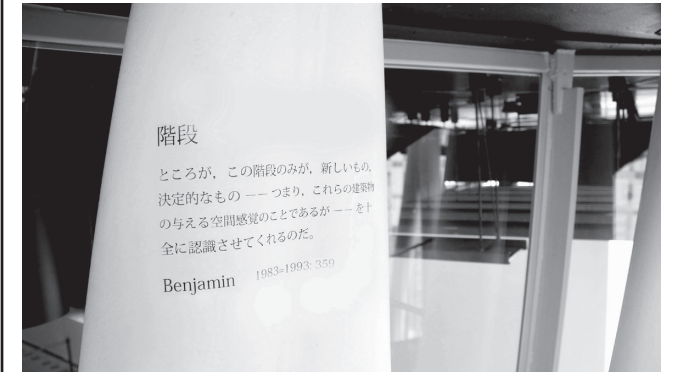


ホスト 仙台クリエイティブ・クラスター・コンソーシアム
マスター 大滝 精一 (東北大学大学院経済学研究科教授)
東北大学大学院経済学研究科
地域イノベーション研究センター

カフェ研からのコメント

カフェがオープンすると、スタジオは普段見慣れない客層の40〜50代サラリーマンが集まり始め（それだけでも新鮮でしたが）、大学生と一緒にいるその空間は、まさに異業種交流の場となりました。みなさんさすがに珈琲の似合う方々で、ラウンジのくつろぎ方も達人（会社の屋上の雰囲気?）。そして今回初めて、エスプレッソのおともに「けんと」のクッキーが登場。残念ながら今回実現しませんでした。次回以降は、クッキー作家の方に関わってもらい、よりクリエイティブなカフェにしたいです！

5番チューブ再開発計画「気配の音」レポート



七界をつなぐ気配の音

媒体棚区（めでいいてく）は、七界を内包する世界だ。それぞれの界は、平行に積層し、通部（ちゅーぶ）と呼ばれる透明の構造体で垂直方向に接続されている。この通部を使って各界の人は行き来することができる。通部は全部で十三あるが、このうち五番通部と呼ばれる南東のものは、内部に階段状の通路を持ち、人が歩くことができる。これは透明な皮膜越しに各界の様相を眺めながら昇降し、幹から枝先へ移るように、各界へ移動できる特殊な通部なのである。媒体棚区の各界には、独自の特殊な情報属性があり、それを目的として訪れる人々は、積極的に他界の人や状況に関心を持ち交流を行うことは希である。しかし、自らの足下の世界で、または天上の世界で、常に未知の情報体験が彼らを待ち受けている、この可能性だけが持続した状態は七界の特殊な構造をもつ世界の機能不全につながりかねない。そこで媒体棚区の運営人は、この可能性を放置せず現実のものとするために、五番通部を有効活用することにした。通部内空間を魅力的に演出し、この内部でしか実現出来ない表現を提示しながら、各界への人の接続機会を増やそうというのである。巨大な吹き抜け空間でもある五番通部内は豊かな音響効果が得られることから、音によって、他界の人や活動の気配を表現しようと試みた。音響芸術家の瀬川雄太氏によって現された「無言の目撃者」という作品は、通部内の人の動きに反応し、また内部の環境音を取り込みながら同時間的に構成される音響表現である。気配を音で感じることで、他界の状況に関心が生まれ、七界の人の心が少しづつ共鳴していけば、媒体棚区は観念的にも完成されていくに違いないのだ。

通部卿こと通部狂介